

路線の必要性に係る検討・分析報告

— 花咲線 —

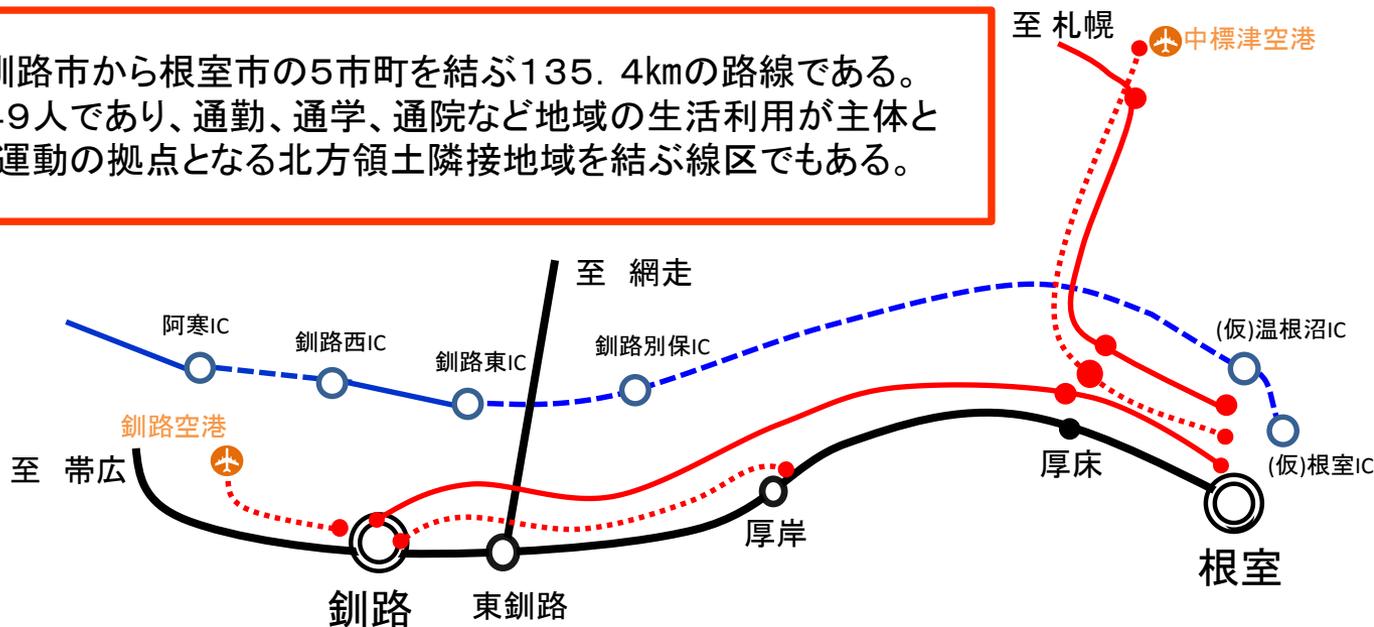
釧路地方総合開発促進期成会 JR花咲線・釧網線対策特別委員会

目次

花咲線の概要	1
沿線エリアの状況	2
鉄道の利用状況等	4
検討経過	5
路線の必要性（価値の再認識）	
生活交通	6
北方領土	10
自然環境	12
沿線景観	15
観光施策	16
物流ネットワークを支える機能	20
交流人口	21
空港との連携	22
路線の必要性と可能性について（まとめ）	24
路線維持に向けた課題	
巨額の収支不足の構造	25
今後の投資経費	26
花咲線の価値等を踏まえた路線維持に向けた考え方	27

花咲線の概要

- 根室線(釧路～根室間)は、釧路市から根室市の5市町を結ぶ135.4kmの路線である。
- 平成27年の輸送密度は、449人であり、通勤、通学、通院など地域の生活利用が主体となっているほか、北方領土返還運動の拠点となる北方領土隣接地域を結ぶ線区でもある。



1 運行区間の概要

- ・営業キロ 135.4km
- ・駅数 20駅(有人駅3駅、無人駅17駅)
- ・本数 上下16本(釧路～根室間12本、釧路～厚岸間4本)

2 経営状況

- ・輸送密度 449人/キロ/日(H27)
- ・営業損益 △1,076百万円(H27)
- ・営業係数 517(H27)

3 他の交通モード

(1) バス

○都市間バス

- ・札幌～中標津～厚床～根室
1往復/日(北都交通、根室交通)
- ・釧路～浜中～厚床～根室 3往復/日(くしろバス、根室交通)

○路線バス

- ・釧路～別保～双河辺 4.5往復/日(くしろバス)
- ・釧路～別保～厚岸～霧多布 4往復/日(くしろバス)
- ・浜中～霧多布 3.5往復/日(くしろバス)
- ・根室～厚床～中標津空港 4往復/日(根室交通)
- ・釧路～釧路空港 15往復/日(阿寒バス)

(2) 高規格幹線道路

- ・北海道横断自動車道(開通区間:～阿寒IC、釧路西IC～釧路東IC)
- ・釧路東IC～釧路別保IC(H30開通予定)、(仮)温根沼IC～(仮)根室IC(H31開通予定)

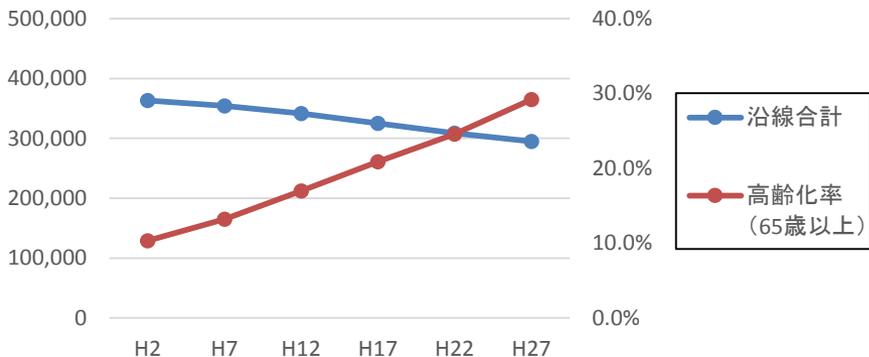
4 特記事項

- ・アニメ「ルパン三世」が描かれたラッピング列車を運行(1両、1日1～2往復)

沿線エリアの状況～(1) 沿線地域の現状

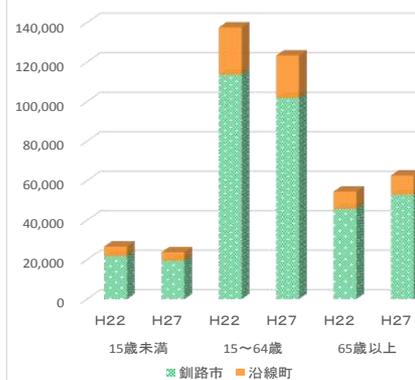
- 花咲線については、釧路市から根室市を結び、2市、3町を沿線エリアとしている。
- 沿線市町は、人口減少・少子高齢化が進行。地域住民の交通手段確保・交通ネットワークの維持は重要な課題。
- 釧路～根室間においては、高規格幹線道路が未整備。広域的連携・交流を促進、安全・安心な地域づくりの観点から、北海道横断自動車道・阿寒～根室間の、早期整備を要望。

● 沿線市町村の人口動向



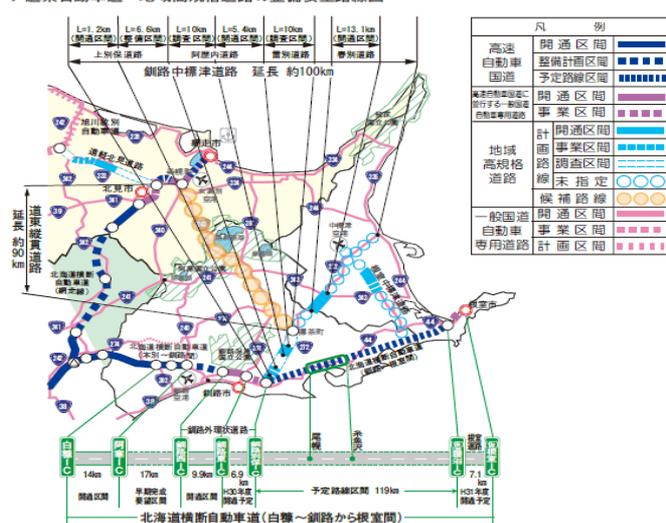
● 沿線市町の人口動態(H22とH27の国勢調査比較)

市町村	年齢層	H 2 2	H 2 7	増減率
		15歳未満	21,772	19,400
釧路市	15～64歳	113,635	101,909	-10.3%
	65歳以上	45,737	52,867	15.6%
沿線町 (釧路町、厚岸町、 浜中町)	15歳未満	4,931	4,344	-11.9%
	15～64歳	23,996	21,522	-10.3%
	65歳以上	8,728	9,799	12.3%
合計	15歳未満	26,703	23,744	-11.1%
	15～64歳	137,631	123,431	-10.3%
	65歳以上	54,465	62,666	15.1%



● 高規格幹線道路の整備状況

▶道東自動車道・地域高規格道路の整備要望路線図



沿線エリアの状況～(2) 路線・沿線エリアの特長

根釧地域の都市機能を結ぶ路線

花咲線は、根釧地域における行政や経済・医療などの都市機能を有し、国際交流拠点として発展してきた、釧路市（中核都市）と根室市（地方中心都市）を結んでおり、道東の経済・文化を支える重要な路線であるほか、釧路・根室連携地域政策展開方針による連携・補完による地域づくりの軸としての役割を担っている。



広域観光周遊ルート

国の広域観光周遊ルートの広域観光促進地域に、花咲線の沿線地域も含まれており、インバウンドの増加や北海道新幹線開業も相まって、今後、国や道が進める観光立国に寄与する大きな可能性を有している。

【広域観光周遊ルート形成促進事業：観光庁】
アジアの宝 悠久の自然美への道 ひがし北海道
認定：2015年6月

対象地域：釧路、摩周・川湯温泉、**知床**、網走、旭川、富良野、十勝川温泉

◆目標値(2020年)

道北・道東の外国人延べ宿泊数「300万人泊」

【参考】釧路管内・根室管内 訪日外国人宿泊客数	(人)				
	H24	H25	H26	H27	H24対比
釧路管内	66,788	90,951	109,737	154,588	231.5%
根室管内	2,521	3,249	4,235	5,235	207.7%

北方領土隣接地域を結ぶ路線

根室地域は、領土返還運動の拠点として重要な役割を果たす北方領土隣接地域に位置づけられており、元島民の高齢化が進んでいることから、公共交通の維持・確保が重要な課題となっているほか、地域内において高規格幹線網の整備が進んでいない状況を踏まえ、鉄道が重要な交通インフラを担っている。また、H28.12月に合意された「北方四島における共同経済活動」の具体化が見込まれる中、当該地域の、人的交流や、物的・経済的交流を支える交通ネットワークとして期待されている。

交流人口の拡大

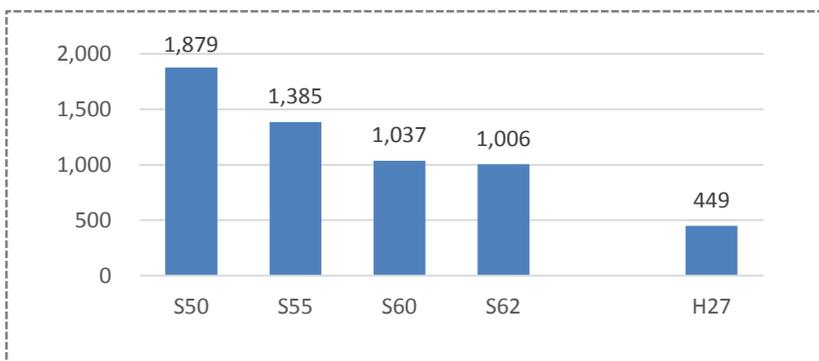
釧路管内・根室管内においては、ラムサール条約登録湿地である「厚岸湖・別寒辺牛湿原」や「霧多布湿原」、「風蓮湖・春国岱」、「野付半島・野付湾」をはじめ、希少生物が生息するなど優れた自然環境を有しており、バードウォッチングやトレッキングなどを目的として多くの誘客があり、特に、長期滞在者の受入れに向けて、各種取組が進められている。



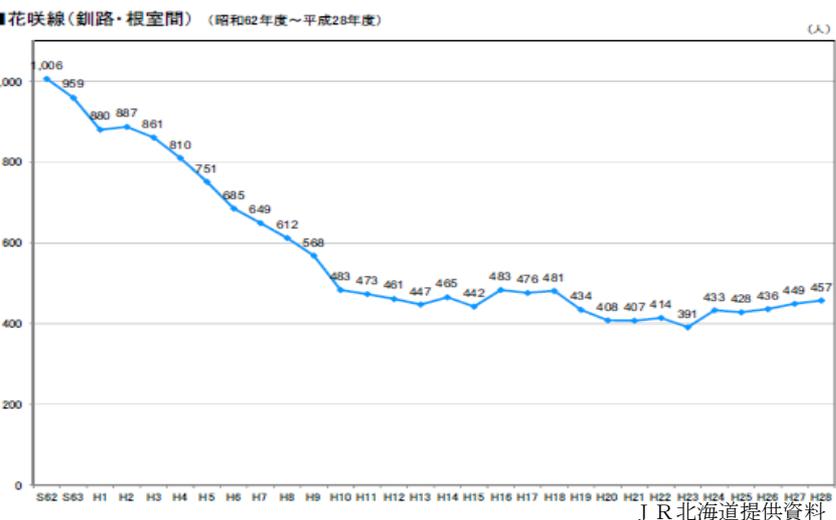
鉄道の利用状況等

- 花咲線の輸送密度は、平成10年代から横ばいで推移しているものの、昭和50年度に比べると、24%程度の利用状況であり、利用者は大きく減少している。
- 利用傾向として、釧路から厚岸までが定期券利用を含め、比較的多く利用されている傾向があり、通学・通院等の利用が多いと考えられる。
- 一方で、釧路地域については、厚岸道立自然公園の厚岸湖・別寒辺牛湿原や霧多布湿原のほか、野付風連道立自然公園、知床国立公園などの貴重な自然環境を有する観光エリアであり、近年、多くの観光客が訪れており、観光宿泊客数も増加している。特に外国人宿泊客数は、急激に増加している。

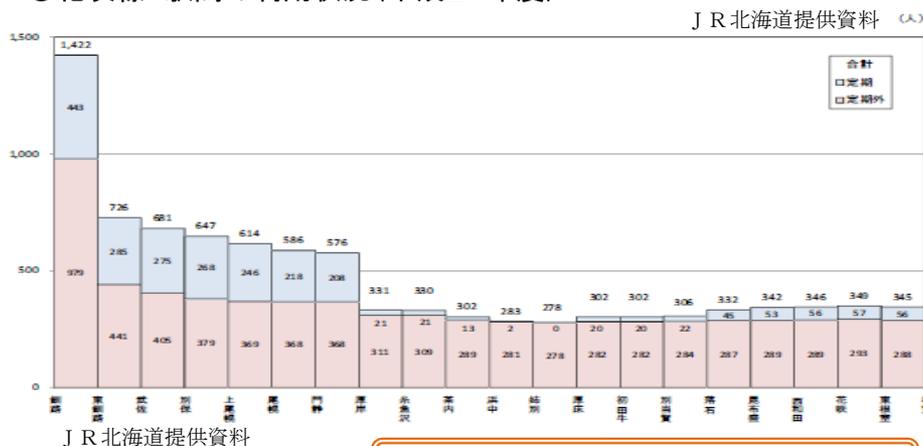
○輸送密度の推移(釧路～根室間)



○輸送密度(昭和62～平成28)

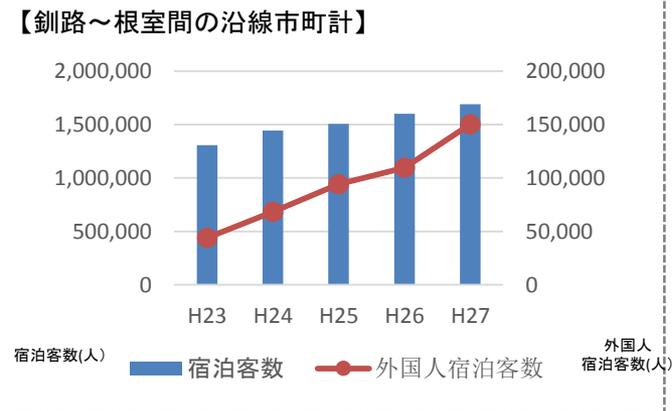


○花咲線 駅間の利用状況(平成27年度)



定期券利用のうち、通学が約90%

○沿線地域における宿泊客数(延数)の状況



検討経過

平成29年4月18日 釧路地方総合開発促進期成会

○常任理事会 J R 花咲線・釧網線対策特別委員会の設置を決定

○第1回 J R 花咲線・釧網線対策特別委員会

(役員選出、道交通企画監からの説明、意見交換)

平成29年5月18日 オホーツク圏活性化期成会釧網本線部会・

釧路地方総合開発促進期成会 J R 花咲線・釧網線対策特別委員会釧網線部会 第1回意見交換会

同日 第2回 J R 花咲線・釧網線対策特別委員会

(J R 北海道からの路線の状況説明、意見交換)

平成29年7月4日 第3回 J R 花咲線・釧網線対策特別委員会

(J R 北海道からの説明、講演：道銀総研大熊特別研究員)

平成29年7月24日 オホーツク圏活性化期成会釧網本線部会・

釧路地方総合開発促進期成会 J R 花咲線・釧網線対策特別委員会 第2回意見交換会

平成29年8月24日 根室地方総合開発期成会 J R 根室本線花咲線対策特別委員会・

釧路地方総合開発促進期成会 J R 花咲線・釧網線対策特別委員会 第1回意見交換会

平成29年10月13日 第4回 J R 花咲線・釧網線対策特別委員会

(北大大学院工学研究院 岸准教授からの助言、山谷副知事出席)

平成29年10月20日 J R 花咲線・釧網線対策特別委員会 第1回作業部会

平成29年10月23～27日 J R 花咲線・釧網線鉄道利用者アンケート調査

平成29年11月2日 J R 花咲線・釧網線対策特別委員会 第2回作業部会

平成29年11月13日 J R 花咲線・釧網線対策特別委員会 第3回作業部会

平成29年11月17日 第5回 J R 花咲線・釧網線対策特別委員会

(J R 北海道からの説明、作業部会からの報告)

生活交通

◎釧路管内を区域とする高等学校の通学の実態

釧路管内を一学区とする釧路学区内においては、花咲線では浜中町や厚岸町から、釧網線では弟子屈町（川湯温泉）や標茶町から釧路市内へ毎日遠距離通学している実態にあり、学区制度を維持していくためには、高速・大量輸送を可能とする鉄道路線が必要である。

北海道立高等学校通学区域規則 別表

学区名	就学すべき高等学校	通学区域
釧路学区	北海道釧路湖陵高等学校	釧路市
	北海道釧路江南高等学校	釧路町
	北海道阿寒高等学校	厚岸町
	北海道釧路東高等学校	浜中町
	北海道厚岸翔洋高等学校	標茶町
	北海道弟子屈高等学校	弟子屈町
	北海道白糠高等学校	鶴居村 白糠町

北海道立高等学校の全日制課程普通科については、19の通学区域（いわゆる「学区」）があり、保護者の住所により就学できる高校が定められています。

学校名	鉄道での通学人数
釧路湖陵	34人
釧路江南	32人
釧路東	2人
釧路北陽	60人
阿寒	0人
白糠	1人
弟子屈	1人
標茶	57人
霧多布	0人
釧路工業	36人
釧路商業	9人
釧路明輝	27人
厚岸翔洋	3人
合計	262人

釧路教育局提供

■平成28年台風による釧網線 長期運休対応【標茶町】

- (1) 影響を受けた生徒数
 ア. 標茶高校の通学生 46名
 イ. 釧路市内の中学・高校への通学生 60名

- (2) 対応内容
 ○8月26日～31日の4日間を標茶町が運行。
 ○9月1日から開通まではJRが運行。

- (3) 課題
通学生への対応が精一杯であり、通院や買い物の人には対応できなかった。



平成28年8月27日付釧路新聞

生活交通

◎花咲線・釧網線鉄道利用者アンケート調査より ～ 利用者が鉄道を選ぶ理由

Q. 他の交通機関ではなく『鉄道』を使っている理由は何ですか？

・ 時間どおりに運行される	定時性
・ 目的地に速く到着できる	高速性
・ 座席が多い	大量輸送
・ 運賃が安い	経済性
・ スーパーおおぞらへの接続が良い ・ 航空機との接続が良かった	他交通との連携
・ 冬道は路面が滑るので鉄道が安心	安全・安心
・ (出張利用者) 会社の規定で鉄道優先利用 ・ 目的地、自宅が駅に近い ・ 他の交通機関がない(釧網線)	その他

Q. 『鉄道』ならではの便利さ、楽しさなどがありますか？

・ トイレがついている ・ 鉄道の方が揺れが少なく、車酔いしづらい ・ 乗車中の時間を利用して勉強、読書ができる ・ 広い、ゆっくりできる、気持ちが落ち着く、身体が楽	快適性
・ 友人と交流できる ・ 他の学校の友人ができる ・ 学校が別々になった友人と会話できる ・ 地元の人と話せる時間がいい ・ 海外の人との交流	交流
・ 湿原を見ることができる ・ 風景や野生動物を見て楽しむことができる ・ 車では見られない風景が楽しめる ・ 山の中を通るので四季が感じられる	景観等

調査日	平成29年10月25日～27日
調査場所	【駅：9か所】 (花咲・釧網) 釧路駅、東釧路駅 (釧網線) 釧路湿原駅、標茶駅、 摩周駅、川湯温泉駅 (花咲線) 厚岸駅、茶内駅、浜中駅 【高等学校：3校】 標茶高校(標茶町) 江南高校(釧路市) 北陽高校(釧路市)
調査件数	279件 通学195件、通院18件、通勤18件、 買い物5件、観光17件、その他25件



釧路北陽高校での聞き取り調査

○朝の通学時間帯は常に満員状態であり、鉄道の特性である大量輸送の効果が発揮される。
○鉄道の高速性により、早朝から長距離を通学する生徒・父兄の負担が軽減されるとともに、部活動など少しでも学校での滞在時間を長くすることにより学校生活を充実させることができる。

生活交通

◎花咲線・釧網線鉄道利用者アンケート調査より ～ 観光旅行者の声、鉄道への不満・要望等

Q. 鉄道(花咲線・釧網線)が無くなって困ることは何ですか？

- ・通学の手段がないと地方学生の進学の幅が狭まる
- ・唯一の交通機関なので、他の交通機関では料金が高くなり訪れることが困難になる
- ・釧路市内に住まなければならないと、生活費がかかる
- ・釧路へ行く手段が1つ減ることであり不便になる
- ・鉄道自体が好きなので無くなってほしくない
- ・高齢者が多くなり通院患者も増えてくると思うので、生活交通は守るべき



厚岸駅構内での調査



早朝、通学生を厚岸駅に送る車両

Q. 現在の鉄道(花咲線・釧網線)への不満や要望はありますか？

- ・運行本数が少ない
- ・朝の便で座れない学生がかなりいるので2両にしてほしい
- ・帰りの列車が1両しかないので狭すぎる
- ・統計をとって乗車の多い時間は2両にすべき
- ・観光客が多いときは座れないことがある
- ・バスとの接続を良くすべき
- ・台風や積雪等でよく運休になる
- ・観光客のキャリーバッグなどの荷物が狭い通路をふさいでしまうことが多い
- ・車内の温度調整がおざなり
- ・走行中携帯電波のないところが多いので改善してほしい
- ・乗客マナーが良くなるよう呼びかけ(注意)してほしい

観光旅行者の声(東京都、愛知県、福岡県より)

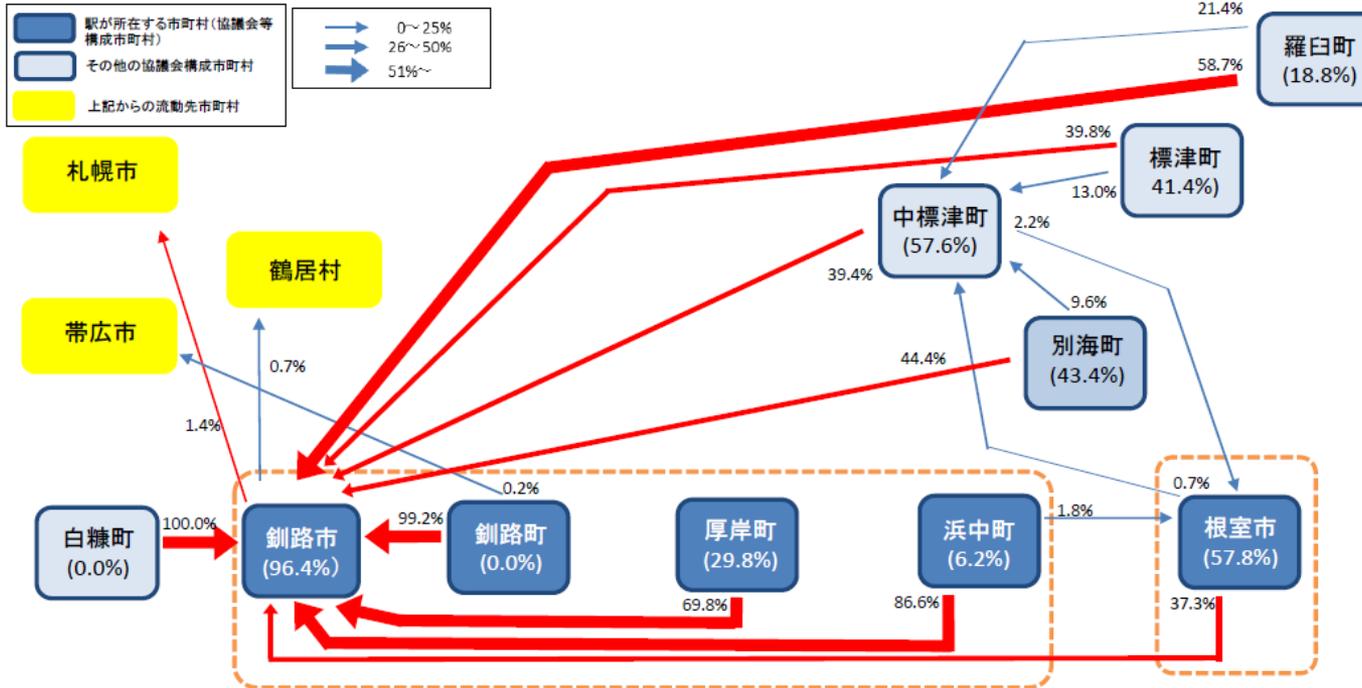
- ・バス観光は定番の観光地ばかり行く。鉄道旅行は自分の行きたい場所へ行ける。
- ・ゆっくり走る普通列車ならではの魅力がある
- ・駅弁が楽しみ
- ・元々鉄道の旅が好きで、北海道にも何度か来ている。これまで札幌や小樽ばかりだったので、今回道東を選んだ。
- ・とにかく列車の本数を増やしてほしい
- ・ジャパンレールパス利用のスイス人旅行者→wi-fi設備を充実すべき
- ・駅の中などで買い物できる場所があれば良い

生活交通

生活交通路線としての役割

○ 入院については、釧路市への医療機関への流動が極めて多い。

<他市町村への入院に伴う移動実態(上位2市町村)>



※()内数値は市町村内での受療割合、
朱色の矢印は各市町村において最も割合が高い他市町村への移動

【出典】北海道総合保健医療協議会地域医療専門委員会資料より北海道作成

北方領土

◎北方領土隣接地域としての必要性

法律・計画等	施策の位置付け
『北方領土問題等の解決の促進のための特別措置に関する法律』	北方領土隣接地域の振興及び住民の生活の安定に関する計画として「交通施設の整備」を図る
『北海道総合開発計画』	重点政策として「北方領土隣接地域の安定振興」
『北海道総合計画』	政策展開の基本方向として「北方領土の早期返還と隣接地域の振興」
『釧路・根室連携地域政策展開方針』	「北方領土の早期返還と隣接地域の振興プロジェクト」



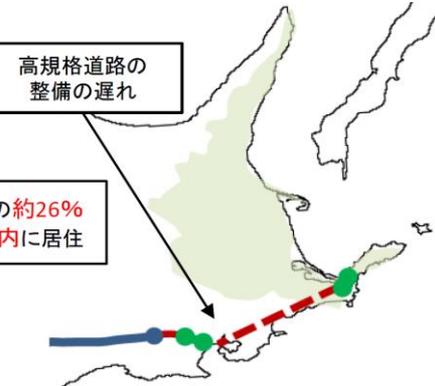
＜北方領土隣接地域と道央圏を結ぶ唯一の鉄道＞
 北方領土との人的交流や物的・経済的交流の面で、
 国策上重要な位置付けにある路線

＜元島民の居住状況＞

居住地	居住人数 (H28.3.31)
道内	4,866
根室管内	1,725
釧路管内	936
その他	2,205
道外	1,753
海外	22
合計	6,641

元島民の高齢化(平均80.7歳)による
公共交通需要の高まり

【出典】千島歯舞諸島居住者連盟調べ



19 地域の話 2017年(平成29年)10月27日(金曜日)

【根室】北方領土の「関係者」根室に効果を

日共同経済活動調査団出発

「関係者」根室に効果を

日共同経済活動調査団は、根室管内の北方領土関係者らと、26日(土)午後、根室管内の千島歯舞諸島を視察し、関係者らと懇話会を開いた。調査団は、根室管内の北方領土関係者らと、26日(土)午後、根室管内の千島歯舞諸島を視察し、関係者らと懇話会を開いた。

根室管内の北方領土関係者らと、26日(土)午後、根室管内の千島歯舞諸島を視察し、関係者らと懇話会を開いた。

←H29. 10. 27付北海道新聞
「日共同経済活動 調査団出発」

↓同調査団を乗せた釧路駅発「快速ノサップ」



北方領土

◎北方領土隣接地域としての必要性

② 北方四島における共同経済活動に向けた動き

- H28.12 日露首脳会談において、北方四島における共同経済活動の協議の開始について合意



【写真】毎日新聞(徳野仁子撮影)

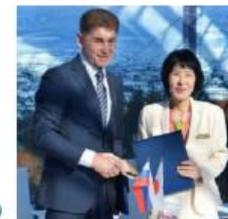
- H29.1 北方領土隣接地域1市4町、千島歯舞諸島居住者連盟とともに「北方四島連絡調整会議」を設置し、共同経済活動等に係る道の提言を取りまとめ

- H29.3.15 道が国に要望を実施

【要請内容】(抜粋)

- 北方四島との交流に関する基本的な考え方
 - 四島と隣接地域等の一体性を図る取組
 - ・隣接地域と四島を巡る周遊・観光ルートの形成等
- 北方四島における共同経済活動について
 - 北方領土隣接地域を中心とし、道内企業等の多彩な技術・経験を活かした共同経済活動への参入
 - 共同経済活動の円滑な実施に寄与する、道路、港湾、空港、鉄道等、北方領土隣接地域のインフラ整備等の推進

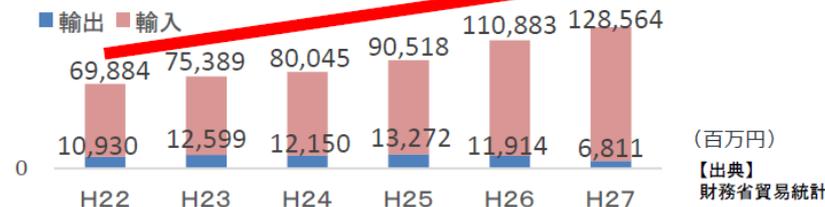
- H29.9.6 高橋知事がサハリン州のコジェミャコ知事と会談。共同経済活動の具体化と早期実現に向け連携を図っていくことを確認



【写真】北海道新聞(則定隆史撮影)

- H29.9.7 日露首脳が共同経済活動として5項目の事業に絞り込むことで合意(①海産物の共同増養殖、②温室野菜栽培、③ツアーの開発、④風力発電の導入、⑤ゴミの減量対策)。

【資料①】 北海道の対ロシア貿易額の推移 約1.7倍



自然
環境

◎ラムサール条約登録湿地等

霧多布湿原

霧多布湿原は、北海道東部の太平洋に面した琵琶瀬（びわせ）湾、浜中湾の海岸線に沿って広がる、南北約9km、東西約3km、面積3168ヘクタールの湿原である。湿原の主要部分と、湿原の西にある火散布（ひちりっぶ）沼と藻散布（もちりっぶ）沼の474ヘクタール、合計2504ヘクタールがラムサール条約湿地になっている。中央部の803ヘクタールは、泥炭形成植物群落として天然記念物に指定されている。



モリカンゾウの咲く霧多布湿原

厚岸湖・別寒辺牛湿原

北海道東部を北から南に流れ下る別寒辺牛川は、全長43km、日本の主要な河川のなかでもっとも人工工作物が少ない自然度の高い川である。流域に約8300ヘクタールの別寒辺牛湿原が広がり、河口に3230ヘクタールの厚岸湖がある。

別寒辺牛湿原は、東の霧多布（きりたつぷ）湿原、西の釧路湿原の陰に隠れて長い間、開発の手が入らなかったため、日本で有数の原生的自然が残されている湿原である。別寒辺牛川流域に広がる大部分はヨシ、スゲ、ハンノキからなる低層湿原だが、1989年に人工衛星写真の解析から約100ヘクタールの高層湿原が、ほとんど手つかずの原生状態で発見された。湿原の発達過程を見られる貴重な湿原である。

厚岸湖は汽水湖で、湖畔の塩湿地には、ここで発見されて名前を冠したアッケシソウをはじめ塩性植物群落が点在し、潮汐の影響を受ける別寒辺牛川の右岸河口では、スゲ類などに特徴的な種構成を見ることができる。



別寒辺牛川と厚岸湖（右奥）



自然環境

◎ラムサール条約登録湿地等

風蓮湖・春国岱

風蓮湖は、北海道根室半島の付け根にある海跡湖である。南から延びる春国岱と、北から延びる走古丹（はしりこたん）の二つの砂州でオホーツク海と隔てられ、中央部と南東端の2カ所の開口部で海とつながっている汽水湖である。東西約20km、周囲約65km、面積は約5600ヘクタール。面積に比べて湖岸線の長い、複雑な形をし、湖岸には広大な干潟が形成されている。流入河川は13本あり、河口付近には塩湿地が発達し、とくに風蓮川河口のそれは広大で、独特の景観を見せている。

春国岱は、オホーツク海の海流が運ぶ砂が堆積した砂丘で、風蓮湖にふたをしたような形になっている。約3000年前から1500年前にかけて形成された、年代の違う三列の砂丘で構成されている。長さ約8km、最大幅1.3km、面積は約600ヘクタール。砂浜海岸から草原、森林、塩性湿原、干潟と異なる生態系に、多様な野生生物を見ることができる。とくにアカエゾマツ林は、砂丘上に形成された世界でも珍しい例である。

風蓮湖は海産資源に恵まれた湖で、ホッキ貝やアサリ、コマイ、ワカサギなどの漁がおこなわれている。



春国岱の景観

野付半島・野付湾

野付半島は、北海道東端の根室半島とその北側の知床半島の間、根室海峡に突き出た、釣りばり状に湾曲した半島である。対岸の国後島との間の根室海峡を南下する潮流で運ばれた砂が堆積してできた、長さ28kmの日本最大の砂嘴である。標高はほとんどなく、平坦な砂浜と湿地だけがつついている。あちこちにトドワラ、ナラワラと呼ばれる荒涼とした独特の景観が見られる。トドマツやミズナラの樹林帯だったところが、地盤沈下と海水の浸食によって立ち枯れ、白く風化した姿である。直線的な外海部に対して、エビの腹部のように湾曲した内湾には、複雑な形に突出した干潟が形成され、汀線付近には塩湿地が広がり、甲殻類、貝類、魚類、ゴカイ類などが多く生息している。

こうした自然度の高い、多様な湿地環境を反映し、ここには毎年、春と秋、2万羽以上の渡り鳥が飛来し、重要な中継地となっている。とくに、キアシシギ、オオハクチョウ、コクガン、ヒドリガモ、スズガモ、ホオジロガモは、地域個体群の個体数1%以上を支えている。アカアシシギの繁殖も確認されている。



野付半島の景観(写真:藤井薫)

自然環境

◎厚岸道立自然公園

厚岸道立自然公園は、北海道東部の玄関都市である釧路市の東、釧路町東部の太平洋沿岸部から厚岸町、別寒辺牛川河口部・厚岸湖を経て浜中町霧多布へかけての、沿岸に沿って発達する海岸段丘、海食崖、湖沼、湿原など、変化の多い地形に恵まれた自然公園です。

本地域の気候は、夏季は海流の影響で海霧が発生しやすい一方、冬季は、雪が少なく晴天の日が多くなります。また、年間を通して気温は低めで、日本でも最も冷涼な気象条件となっています。

高緯度で冷涼な気候の本地域では、本州では山の上でしか見られない高山植物を海岸草原や湿原で手軽に見ることができます。

本公園は、1955年(昭和30年)に当時の制度である道立公園として指定されたのが自然公園としての始まりです。公園の区域は、釧路町、厚岸町、浜中町の3町にまたがって東西に長く広がり、総面積は約21,000haです。

森林、海岸草原、湿原、湖沼等変化に富んだ自然に恵まれている本地域では、ダケカンバ、トドマツ等の針広混交林、ヒオウギアヤマセンダイハギ等の海岸性の植物、エゾカンゾウ・ツルコケモモ等の湿原性の植物などの様々な植生が見られます。また、多彩な環境に、森林性・草原性の鳥、オオハクチョウをはじめとしたガンカモ類等の水鳥、タンチョウ、オオワシ・オジロワシ・エトピリカ等の希少鳥類等も分布しており、1年を通して実に様々な野鳥を観察することができます。

厚岸道立自然公園

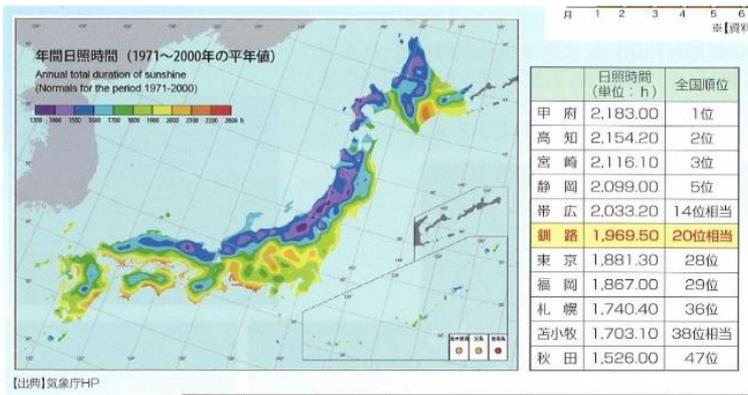


沿線
景観

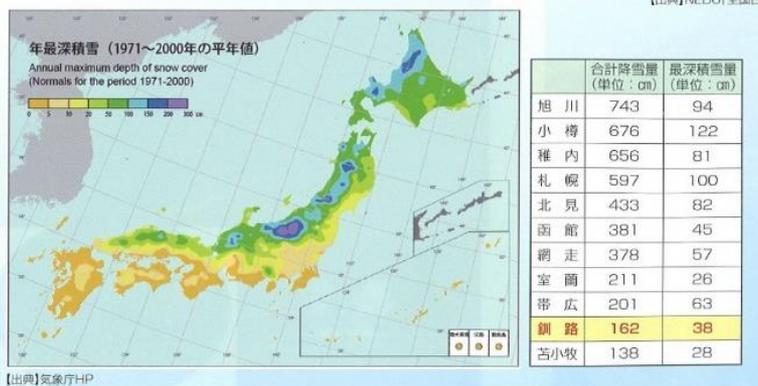
◎優れた自然環境や雄大な大地

日照時間

- ・全国的に見ても日照時間の長い地域
- ・特に冬～春にかけて長くなる傾向がある



降雪量・積雪量・北海道内でも最も雪の少ない地域



別寒辺牛湿原



厚岸海岸



落石海岸

観光施策

◎道東の広域観光ルートの可能性

「アジアの宝悠久の自然美への道 ひがし北・海・道」形成計画
 計画に位置付けられている「広域観光促進地域」の取り組みを鉄道(花咲線・釧網線)が支える

実施主体

- ・名称 『プライムロードひがし北・海・道』推進協議会
- ・会長 上野 洋司 (ひがし北海道観光事業開発協議会 会長)
- ・事務局
ひがし北海道観光事業開発協議会、北海道観光振興機構、北海道
- ・構成員
ひがし北海道観光事業開発協議会、北海道観光振興機構、
広域観光団体(観光連盟、観光圏等)、拠点地区観光協会、
拠点地区市町村、各地方空港誘致協議会、JR北海道、
NEXCO東日本、JAL、ANA、AIRDO ほか

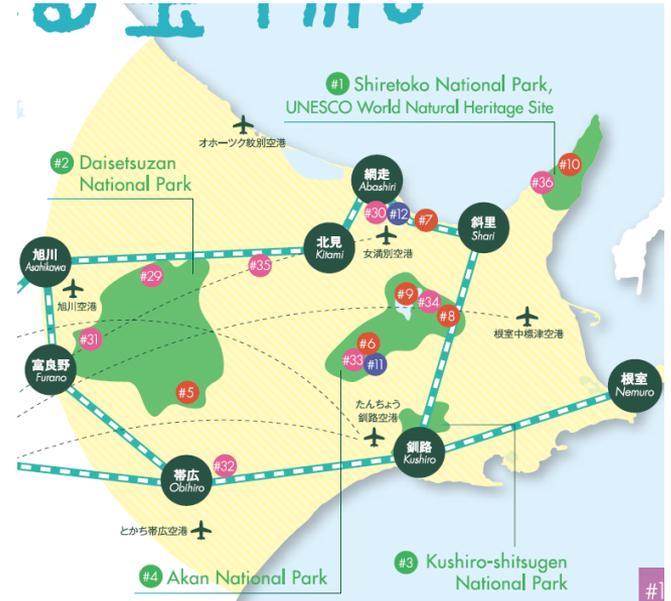
目標設定・成果把握・計画期間

- ・目標の設定
 - 道北・道東の外国人延べ宿泊者数
3,000千人泊(H32年)
(中間年H29:1,700千人泊)
 - 観光消費額(1人あたり)及び満足度
調査結果を踏まえ設定
- ・成果の把握方法
 - 北海道「北海道観光入込客数調査」
調査データにより把握
- ・計画期間
 - 平成27年度から平成31年度まで



事業の概要

- ・広域で取り組む主な事業
- (1) 事業計画認定・マーケティング
 - レンタカーデータ、本道最大の滞在拠点・札幌からの導線の調査
- (2) 受入環境整備・交通アクセスの円滑化
 - 移動wifiの整備や、地方空港のゲートウェイ化を見据えた地上ルート形成施策
- (3) 滞在コンテンツの充実
 - SNSによる商品開発、SNSから北海道各地の世界一
 - (4) 対象市場に向けた情報発信・プロモーション
 - 統合WEBを観光圏などと連携で実現(ロマンチック街道HP参考)



知床方面への観光ルート



摩周湖



屈斜路湖



知床五湖



川湯温泉



ウトロ温泉

出典：『プライムロードひがし北・海・道』推進協議会
 オフィシャルWEBサイト(ガイドマップ)

観光
施策

◎インバウンドの増加

③外国人向けレールパスの販売状況

北海道レールパスの販売枚数は、全国以上の伸び率となっているが、全国に占めるシェアは、依然低い。

	H27	H28	対前年比
JR6社計	231.8万枚	273.1万枚	117.8%
北海道レールパス	7.9万枚	9.4万枚	119.0%
シェア	3.4%	4.1%	

北海道
レールパス
外国人旅行者
専用割引切符
(特急・急行列
車が乗り放題)
・3日間16,500円
・5日間22,000円
・7日間24,000円

【訪日外国人推移】



【出典】北海道観光入込客数調査報告書、JR北海道資料、北海道調べ

4P



バードウォッチングの聖地

出典：釧路・阿寒湖観光公式サイト SUPER FANTASTIC Kushiro Lake Akan

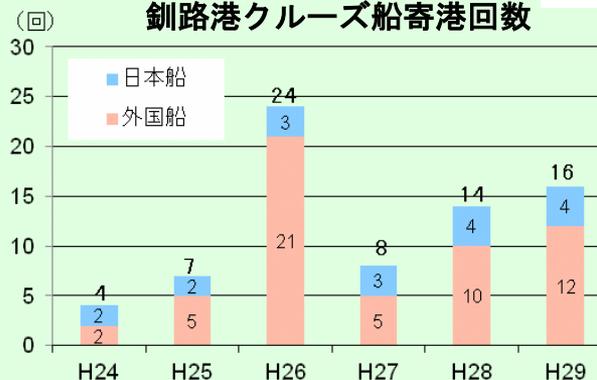
【耐震・旅客船岸壁に着岸するクルーズ船】



釧路市開催の各種大会等状況 (単位：件)

会議・スポーツ合計	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
国際	2	7	5	2	3
全国	19	12	16	19	14
全道	42	56	51	35	51
地方	2	1	4	8	8
合計	65	76	76	64	76

釧路港クルーズ船寄港回数



観光
施策

◎優れた沿線景観等を背景とした
観光列車の可能性

根室本線(花咲線)



「釧網線・花咲線の観光路線としての可能性」

株式会社道銀地域総合研究所 大熊 一精氏 講演

平成29年7月4日 釧路地方総合開発促進期成会
第3回 J R 花咲線・釧網線対策特別委員会

1. 観光列車とは

- ・豪華列車(クルーズトレイン)
- ・各地の観光列車
車輜、車内サービス、地域の関わり
収益への貢献、地域経済への貢献
- ・観光列車の運行主体、運行形態



「根室線」沿線の景観は、どこをとってみても内地と非常にちがう。もし、「もっとも北海道らしい線は？」と問われれば「釧路から根室まで」と答えてよいだろう。
(宮脇俊三『最長片道切符の旅』)

厚床を発車した。これから根室までの45キロは、日本の鉄道路線のなかで私のもっとも好きな区間である。...これは日本の風景ではない。沿海州のナホトカあたりの景観に似ている。
(宮脇俊三『終着駅へ行ってきます』)

2. 観光鉄道としての釧網線・花咲線の可能性

- ・釧網線: 3つの国立公園と1つの国定公園、釧路湿原、タンチョウ、流氷地域で支えてきた歴史(藻琴、北浜、浜小清水、止別、川湯温泉)
- ・花咲線: 厚岸湾、別寒辺牛湿原、ユルリ島・モユルリ島
宮脇俊三氏「もっとも北海道らしい線は釧路から根室まで」
- ・沿線観光地へのアクセス(観光路線)から、乗ることが目的となる観光鉄道へ
- ・「路線を残す」から「地域(国)に必要な存在とする」へ(新たな価値の創出)
- ・「観光列車」と「地域の足」の両立

観光
施策

◎観光列車の可能性
（「食」の魅力）

その先の、道へ。北海道

北海道観光列車旅行者動向調査モニターツアー

釧路駅
での
歓迎

北海道観光列車

道東ハイライト・感動本線 添乗員同行 3371490-003

ふれあいの旅・2泊3日(根室・釧網・石北本線)

旅行期間 2017年11月3日(金・祝)~11月5日(日) 出発日限定!

コースのポイント

- ★道東を周遊する2泊3日の札幌発着の感動満喫ツアー
- ★駅や町で、沿線のみさまによるおもてなしも楽しみ!
- ★3日目は海と山の観光を連続出来ませう

旅行代金(お一人様/おとなも(小学生以上)共)

39,800円 (2名様) ※1名様1利用の場合は
1名様利用 4,000円増しになります

ご宿泊案内

- ホテルルートイン釧路駅前
- ホテルルートイン根室駅前
- ホテルルートイン石北本線駅前
- ホテルルートイン根室駅前
- ホテルルートイン石北本線駅前



平成29年8月12日付釧路新聞

花咲線沿線地域の味覚



2017年10月1日~2018年3月31日

花咲線 & グルメ

日帰り満喫パック

レール×オイスター

2017年10月1日~2018年3月31日

旅行代金 ¥2,800

2017年10月1日~2018年3月31日

旅行代金 ¥2,000

2017年10月1日~2018年3月31日

旅行代金 ¥2,000

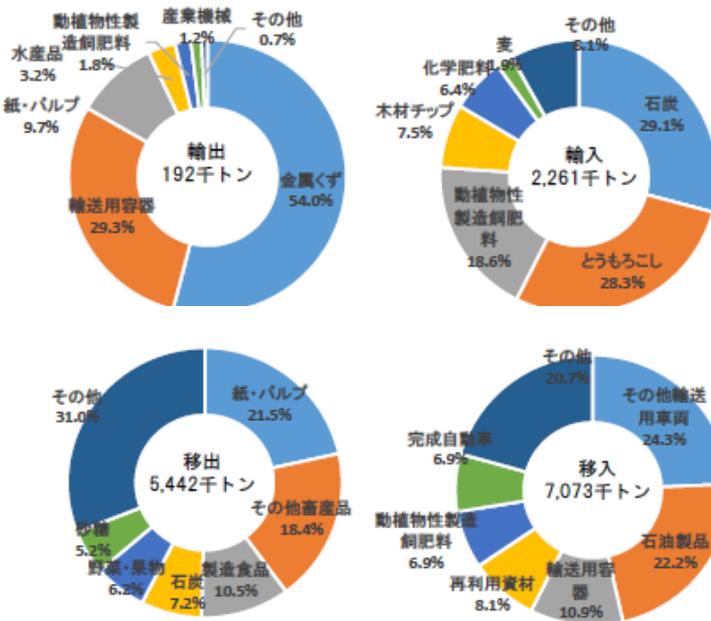
2017年10月1日~2018年3月31日

旅行代金 ¥2,000



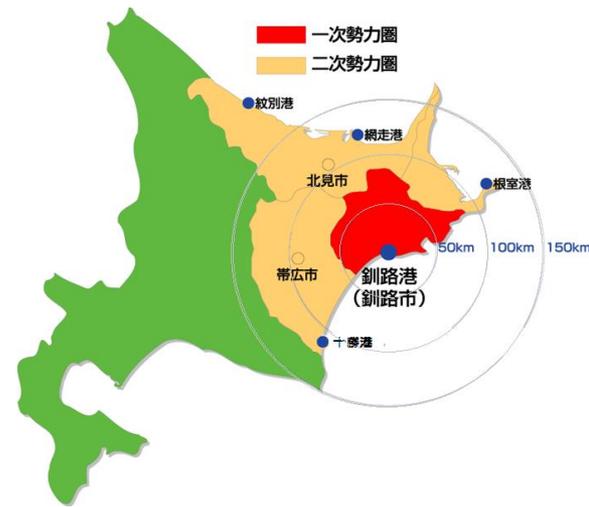
花咲線&グルメ日帰り満喫パック

品目別輸移出入取扱貨物量 (平成27年)【釧路港】

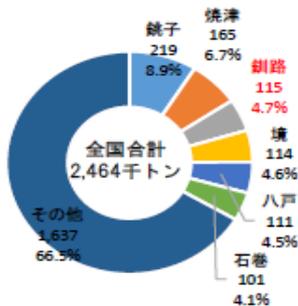


【出典】北海道港湾統計(北海道)

◆釧路港の背後圏はひがし北海道全域(釧路, 根室, 網走, 十勝)



産地上場水揚量 (平成27年)



【出典】産地水産物流通調査(水産庁)

新富士駅・音別駅はコンテナ取扱駅として鉄道貨物輸送の拠点となり、新富士駅からは貨物列車が毎日出発している。



JR北海道 新富士駅

○釧路港は、外貿、内貿における東北海道の拠点港。また、国内有数の酪農地帯である東北海道において飼料原料となる穀物の輸入基地であり、また、背後圏には製紙業が立地していることから、紙パルプ、とうもろこしなど製紙や畜産関連品目を多く取り扱っている。

○また、同港は、国際バルク戦略港湾(穀物)に選定(H23)されており、穀物の大量一括輸送による、安定的かつ安価な海上輸送を可能とする大型船舶に対応するため、岸壁等を整備中である。

○全国有数の水産物水揚港(全国3位)としても機能している。

●国際バルク戦略港湾 (イメージ図)



鉄道については、物流ネットワークを支える機能を有する釧路地域と、本道有数の農業地帯である東北海道をつないでおり、今後、物流面での様々な役割を担う可能性を有している。

交流人口

◎長期滞在者(ちょっと暮らし)による
鉄道利用

○長期滞在者の多くは滞在中に周辺への観光旅行に出かけており、その交通手段として鉄道の利用率が高くなっている。総合戦略にも位置付けられる長期滞在・移住政策にとって鉄道の存在は極めて重要である。



2016夏 涼しくしろで避暑生活 アンケート結果

Q. どこか観光地へ旅行されましたか。

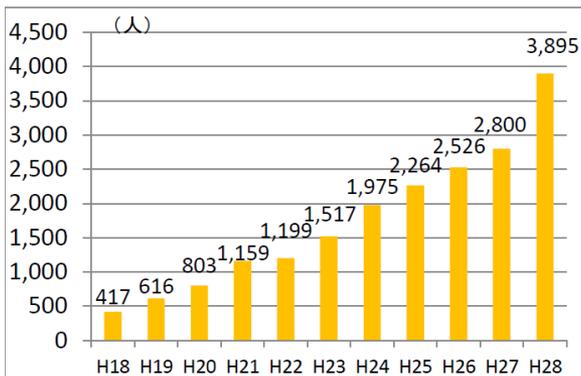
(上位6管内) [複数回答可]

釧路管内	70%
根室管内	54%
十勝管内	34%
上川管内	22%
網走管内	18%
後志管内	16%

Q. 滞在中に利用した主な移動手段(交通手段)を教えてください。[複数回答可]

自家用車	46%
レンタカー	16%
JR	46%
その他交通機関	30%
自転車	22%
徒歩	60%
その他	20%

5 利用者数の推移



3 利用者数等上位10市町村

順位	市町村	利用者数	順位	市町村	滞在日数
1	釧路市	1,311人	1	釧路市	22,105日
2	登別市	190人	2	浦河町	5,333日
3	上士幌町	151人	3	新ひだか町	3,167日
4	浦河町	120人	4	美瑛町	2,480日
5	中標津町	84人	5	上士幌町	2,398日
6	東川町	72人	6	根室市	2,191日
7	栗山町	71人	7	日高町	2,103日
8	根室市	69人	8	登別市	2,017日
9	美瑛町	61人	9	旭川市	1,934日
10	新ひだか町	60人	10	中標津町	1,864日

鉄道利用者の声

◎長期滞在者からの聞き取り

- ・主人と2人で釧路で通年滞在中。滞在中、観光などで鉄道をよく利用している。
- ・私はペーパードライバーであり、冬季間は非常に運転が怖い。
- ・主人はバスだと車酔いをするので、鉄道を使うことが多い。
- ・私たちのような旅行者にとって、鉄道はとても大切。無くなっては困る。
- ・旅行先は花咲線で根室の納沙布岬も行ったし、釧網線で網走の流水を見たりしている。
- ・鉄道の旅は、一番、風景をゆっくり楽しむことができる。
- ・釧網・花咲線の沿線風景は非常に素晴らしく、こんな地域は他に無いと思う。どこを走っていても退屈しないほどの景観が続いている。
- ・特に湿原の中を走るときの景観は素晴らしい。霧がかかっているときもそれ自体が味わいとなる。
- ・季節ごとに、それぞれの魅力がある。

道内空港活性化ビジョン (平成22年3月)

●地域間・空港間の連携 ⇒道外観光客誘致等の取組

- ・ 路線が結ばれている地域や東北地方との連携
- ・ 近隣の空港など複数の空港の連携

●他の交通機関との連携 ⇒利用者利便の向上や多様な交通手段の選択肢を確保

- ・ 新幹線や鉄道、バス、船舶、タクシーなどとの連携

「ひがし北海道」が空港等で連携した交通ネットワークの形成による広域観光周遊ルートへの推進

取組展開

- ・ 大都市からの大動脈として、JRやそれを補完する広域観光周遊バスの運行
- ・ ひがし北海道の冬季の2次交通対策として、エクスプレスバスを運行し、釧網線、花咲線と有機的に組み合わせた交通網を構築
- ・ 今後さらに個人旅行化が進む訪日外国人観光客市場においては、現在ジャパンレールパスや航空路線の乗継にかかるインバウンド向けの割引制度など、既存公共交通のインバウンド向け施策の活用が必須であり、鉄道の持つ重要性はさらに高まっていく
- ・ 海外における当地域の認知度は高くなく、平成27年度より、釧路市、帯広市、網走市の3市が連携し、「ひがし北海道」として面でのプロモーションを展開
- ・ 石井兄弟社社長(明日の日本を支える観光ビジョン構想会議委員)が中心となり、航空3社、釧路・帯広・網走の3市等で組織する「ひがし北海道観光キャンペーン協議会」においても、広域観光の魅力を訴求しており、こうした展開をしていくうえでも、JR路線の維持は重要となる

路線の必要性と可能性について(まとめ)

【路線の位置付け（テーマ）】

- 地域の安全安心な生活を守る路線
- 北方領土隣接地域と道東の中核都市を結ぶ路線
- 広域観光周遊ルートの形成に重要な役割を持つ路線

生活路線

- ◆定期券購入者の9割は通学利用であり、生徒には欠かせない地域の足。
- ◆管内高校生の通学での鉄道利用者は262名。バス(50人乗)転換した場合、同時間帯に5～6台必要。
- ◆バスへの転換で、運行の定時性の低下や所要時間の延長を懸念
- ◆特に冬季間における高齢者の通院等の手段として今後益々必要性が高まる

広域観光周遊ルートの形成

- ◆ラムサール条約登録湿地の「霧多布湿原」や「厚岸湖・別寒辺牛湿原」。「知床国立公園」にも隣接。
- ◆温泉地や新鮮な海産物等豊かな観光資源
- ◆国の広域観光周遊ルートの『広域観光促進地域』に位置づけ

北方領土隣接地域

- ◆北方領土返還運動の拠点
- ◆日露首脳会談(H28.12)で合意された「北方四島における共同経済活動」

交通ネットワーク

- ◆釧根地域の行政・経済、医療などの都市機能を担う釧路市と根室市を結ぶ
- ◆2つの空港(釧路・中標津)が立地

→ビジネスや広域周遊観光での人の流動を促進

物流ネットワークを支える機能

- ◆釧路港は、穀物の輸入基地であり道東地域の生産基盤を支える国際バルク戦略港湾に選定(H23)。
- ◆路線は、物流ネットワークを支える釧路地域と、本道有数の食糧供給基地である東北海道を結ぶ。
→ 物流面での様々な役割を担う可能性 (貨物運行の課題について検討が必要。)

環境保全

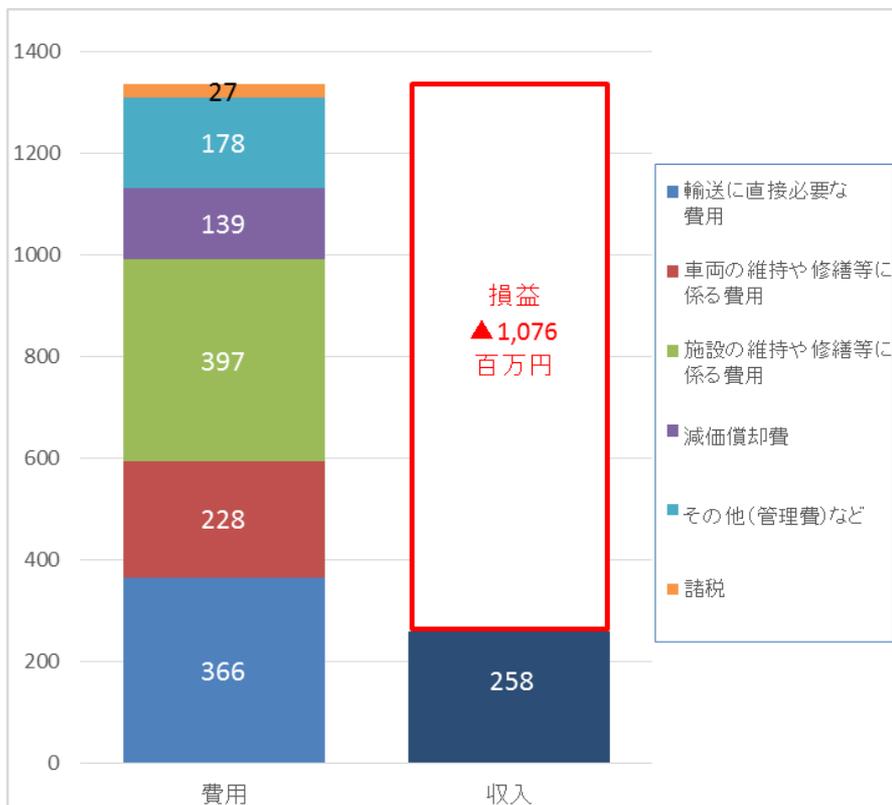
- ◆貴重な自然環境を有する道東地区を横断するルート
- ◆世界自然遺産「知床国立公園」と隣接
- ◆大量輸送によりエネルギー効率に優れ、他の交通機関と比べ環境負荷が少ない
→自然との共生、環境保全の面において有効な交通モードとなりえる

路線維持に向けた課題① — 巨額の収支不足の構造

- 花咲線(釧路～根室間)における年間の営業損失は、約10.8億円に及ぶ。(平成27年度決算)
- 費用の内訳及び、経費節減項目と箇所一覧については、次のとおり。

花咲線(釧路～根室間)の収支構造

(単位:百万円)



【出典】JR北海道資料より、北海道作成

経費節減に関する費用例

区分	節減経費
利用の少ない無人駅の見直し(維持費用) ※1駅あたり	約100～200万円/年
〃(ホームや駅舎の抜本修繕、立て直し費用) ※1駅あたり	約500～1,000万円
踏切の見直し ※1箇所あたり	約100万円/年
行き違い設備の撤去 ※1箇所あたり	約300～400万円/年
普通列車の見直し(H28.3.26ダイヤ改正における普通列車79本の減便) ※全道計	投資抑制20億円弱 経費縮減1.4億円/年

【出典】JR北海道資料より、北海道作成

<収支の各項目に含まれる内容>

収入	収入の内容
定期収入	・通勤定期券、通学定期券など
定期外収入	・乗車券、特急券など
運輸雑収入	・建物及び土地等賃料、旅客雑収入(入場料金等)など
費用	費用の内容
輸送に直接必要な費用	・運転士、車掌、指令に係る費用、燃料費 ・駅などの旅客の取り扱いに係る費用
車両の維持や修繕等に係る費用	・車両の検査・修繕に係る費用など
施設の維持や修繕等に係る費用	・線路、橋梁、トンネル、建物などの修繕に係る費用 ・信号、通信設備、配電線などの修繕に係る費用
減価償却費	
その他(管理費など)	・施設、車両の維持、修繕の作業管理に係る本社、支社の費用 ・列車の運転及び旅客の取り扱いの作業管理に係る本社、支社の費用 ・一般管理費の費用など
諸税	・固定資産税など

※ 線区別収支は、会社全体の決算のうち鉄道事業の営業損益をベースとしており、関連事業の営業損益、営業外損益、特別利益、特別損失、法人税等は含まれません。また、当社の線区にかかわらない、出向社員給与等は除いています。

※ 経常安定基金運用益は、営業外損益に計上しています。また、経常安定基金運用益等は各線区の運営赤字を埋めるためのものではなく、会社全体の各施策に優先順位を付けて充たしていくものだと考えているため、個別線区に配賦し、赤字額を圧縮する試算は行っていません。

J R 北海道提供資料

路線維持に向けた課題② — 今後の投資経費

- 同区間における今後20年間の老朽土木構造物の大規模修繕や更新費用は、30億円に及ぶほか、車両の更新費用も12億円に及ぶ。

今後(20年間)の大規模修繕・更新費用

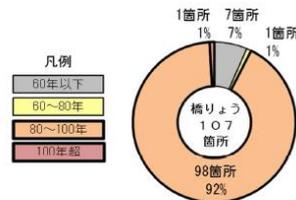
<土木構造物>

線区	橋りょう、トンネル等
花咲線(釧路～根室)	30億円

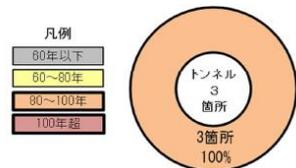
線区	更新車両数	更新費用
花咲線(釧路～根室)	6両	12億円

【出典】JR北海道資料より、北海道作成

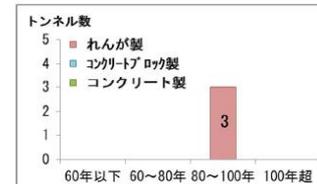
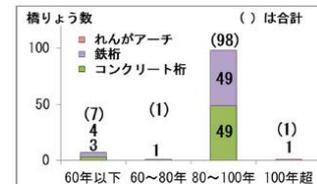
土木構造物の概況(花咲線)



橋りょうの経年および材質



トンネルの経年および材質



大規模修繕・更新の一例

○ 橋りょう

【鋼橋の腐食対策】

花咲線：6億円 釧網線：8億円

- ・ 広範囲にわたって腐食が進むと、橋りょうの寿命が短くなる
- ・ 経年の進行を踏まえ、鋼橋を永続的に使用するため、定期的な塗装の塗替えを実施



腐食が発生した橋りょう

(例：根室線 東滝川・赤平間 第3空知川橋りょう)

【鋼橋の亀裂対策】

花咲線：2億円 釧網線：3億円

- ・ 経年が進むにつれて、桁に亀裂が発生することがある
- ・ 亀裂発生を防ぐ予防的な措置として、亀裂の原因となる橋桁を支える台座部分(支承部)の不具合の修繕を事前に実施



亀裂が発生した橋りょう

(例：石北線 丸瀬布・瀬戸瀬間 金山湧別川橋りょう)

大規模修繕・更新の一例

○ 花咲線の代表的な構造物

【尾幌トンネル(別保・上尾幌間) 覆工材料の劣化・剥落対策 7億円】

- ・ トンネル壁面がれんが積みでできた古いトンネルです。
- ・ 現在も老朽化による影響で補修を重ねていますが、将来的には補修箇所などの抜本的な改築が必要です。
- ・ 諸元
 - 経過年数99年
 - 延長171.0m
 - れんが製



花咲線の価値等を踏まえた路線維持に向けた考え方

釧路地方総合開発促進期成会としては、構成市町村の総意として「花咲線を維持」をしていく意向を確認しているところであるが、当報告書による、利用状況や、路線の必要性（価値の再認識）、実態を踏まえた課題把握などから、その考え方を整理し、共通認識のもと、地域が一体となって路線維持に向けた取組を進める。

沿線エリアの状況・路線の利用状況

- 少子高齢化等による利用減
- インバウンド等の誘客増
- 交流人口拡大

路線の必要性（価値の再認識）

- 広域観光周遊ルートの形成
- 北方領土隣接地域（日露共同経済活動の展開への期待）
- 地域経済（観光・物流等）・住民生活の維持
- 環境保全

路線維持に向けた課題

- 線区の収支構造
- 土木構造物の大規模修繕・更新
- 車両の更新

利用促進に向けた課題（利用者アンケート）

- 利用実態から鉄道以外では通学・通勤などへの影響が大きく、就学環境等が悪化。
- 他交通モードとのネットワーク強化（本数増・接続向上）、wi-fi設備の充実など環境整備

路線の位置づけ（テーマ）

通学や通院など沿線地域住民の安全安心な生活を守りながら、北方領土隣接地域と道東の中核都市を結び人的・物的交流を支え、また、広域観光周遊ルートの形成に重要な役割を持つ路線。

今後の取組の方向

- ① 北方領土隣接地域と道東の中核都市を結ぶ、花咲線を維持するため、国への働きかけやJRへの提言、また、それらを前提として地域で取り組む具体的方策について道と共に検討
- ② 地域の様々な主体が一体となった利用促進、経費の節減や協力などJRと連携した取組の検討・実施
- ③ 鉄路をかけがいのない生活産業基盤の一つとして、地域全体で認識し、その利活用や地域活性化を図るなど、花咲線をコミュニティで支える気運醸成に向けた取組の検討・実施

路線の位置づけ（テーマ）

通学や通院など沿線地域住民の安全安心な生活を守りながら、北方領土隣接地域と道東の中核都市を結び人的・物的交流を支え、また、広域観光周遊ルート形成に重要な役割を持つ路線。

【生活路線】

本路線は、住民生活を支える重要な路線であり、特に通学利用は9割にのぼり生徒には欠かせない地域の足としての役割を担っている。なお、管内高校生の鉄道による通学生は262名であり、バス（50人乗り）での輸送を考えた場合、同時間帯に5台から6台、必要となることを考慮すると、鉄道が無い場合、利便性が著しく低下することが見込まれる。また、生徒からも運行の定時性が低下することや所要時間が長くなることなどを懸念する意見があり、生活交通路線として路線が無い場合の影響は深刻である。

【広域観光周遊ルートの形成】

本路線のエリアは、ラムサール条約登録湿地で学術的価値を有する「霧多布湿原」や「厚岸湖・別寒辺牛湿原」があり、また、知床国立公園にも隣接していることなど恵まれた自然環境を有しており、加えて、温泉地や新鮮な海産物等の魅力により、多くの観光客が訪れている地域である。豊かな観光資源を活かし、更に外国人観光客等の周遊を促すための、国の広域観光周遊ルートの広域観光促進地域に当エリアが含まれており、今後、国や道が進める観光立国の施策推進に寄与する大きな可能性を有している路線である。〔釧路・根室管内訪日外国人宿泊客数実績 H24：69,309人⇒H27：159,823人 **2.31倍**〕

【北方領土隣接地域】

根室地域は北方領土隣接地域として、北方領土返還運動の拠点であるほか、日露首脳会談（H28.12）で合意された「北方四島における共同経済活動」の実現に向けて政府間の作業が進められており、今後、積極的な人的・物的交流が見込まれるため、本路線についても、エリア内外をつなぐネットワークとして役割が期待されている。

【ネットワークとしての役割について】

本路線は、釧路市と根室市を結んでおり、根釧地域の行政・経済、医療などの都市機能をつなぐネットワークとして、地域経済や安全安心なまちづくりを支える重要な役割を担っている。また、釧路駅には、2,732人/日、根室駅には、264人/日の利用があるほか、当該地域には、2つの空港（釧路・中標津）があり、ビジネスや広域周遊観光の面における人の流動を促進する役割を有しているものとする。（※H27利用実績：JR提供データ 発売枚数からの一日当たりの利用者数（推計値））

【物流ネットワークを支える機能について】

釧路地域は、穀物の輸入基地として国際バルク戦略港湾に選定されている釧路港をはじめ、物流の拠点機能を有しており、その中で、鉄道については、物流ネットワークを支える釧路地域と、本道有数の食糧供給基地である東北海道をつないでいることから、今後、物流面での様々な役割を担う可能性を有している。（車両重量や路盤耐性等、貨物運行の課題について検討が必要。）

【環境保全について】

本路線は、道東地域を横断するルートとして、「霧多布湿原」も含まれる「厚岸道立自然公園」などを通り、また、知床国立公園とも隣接しているなど、貴重な自然環境の中を通過する路線である。他の交通機関と比べ、大量輸送によりエネルギー効率にすぐれ環境負荷の少ない特性を持つ鉄道が、自然との共生、環境保全の面において有効な交通モードとなりえるエリアである。